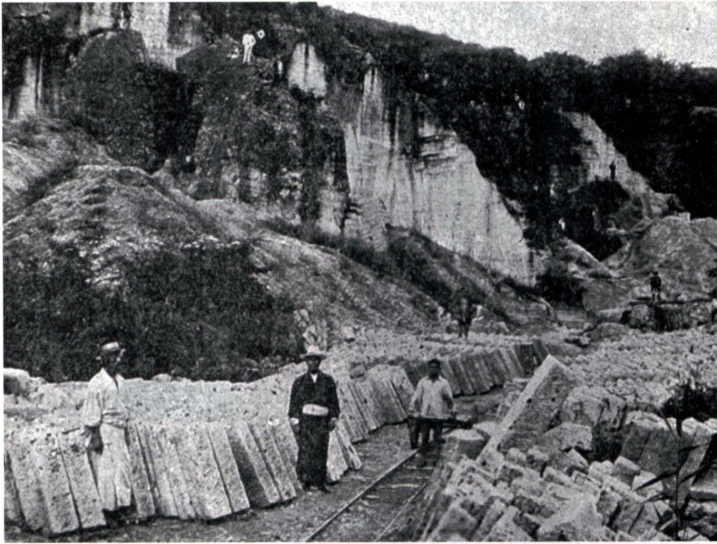


(株)屏風岩 (渡辺久子家) 文書

宇都宮市大谷町の渡辺久子氏からこのたび栃木県立文書館に三八六〇点の文書が寄託されました。渡辺家は明治、大正、昭和の時代に河内郡城山村大谷(旧荒針村)を中心に特産の大谷石を採掘販売する株式会社屏風岩石材部を経営して隆盛を極めました。この(株)屏風岩(渡辺久子家)文書は、それらに関する史料が中心となっています。



大谷石採掘状況 (No. イ147)

大谷石は、江戸時代から河内郡荒針村で家の土台石や垣根石として細々と掘られていましたが、「質軟ク白色」で「能ク火氣・寒氣ニ勝リ竈・七輪・倉庫ニ用ユ」とあり、それらの特徴を生かして、明治以降建築用材として倉庫、礎石、石塀、石垣、下水道その他溝渠用材、運河及び築港埋立用材と使用範囲を拡大していきました(「大谷石材株式会社起業説明書」)。

石材輸送の手段として、明治三十年(一八九七)宇都宮と荒針村との間に宇都宮軌道運輸株式会社の人車鉄道が開通し、その後宇都宮石材株式会社によって荒針村から宇都宮の鶴田駅を結ぶ軽便鉄道が敷設されて、京浜地方と直接鉄道によって結ばれることになり、大谷石の販路が飛躍的に拡大しました。渡辺家は、幕末から大谷石の採掘業を営んでおり、当主の庄作、陳平、寿夫、宏之と続きましたが、その発展の基を築いた渡辺陳平は当地方の大谷石採掘販売業の中心人物

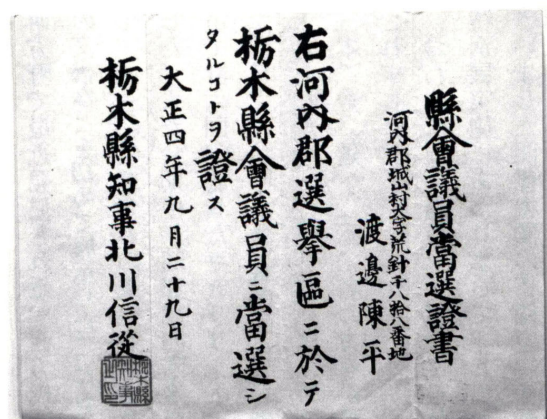
となつていきました。

早くも明治三十二年には宇都宮石材問屋組合の組織に参画し、大谷石の品質と価格統一やそこで働く職工の確保と賃金の統一等に尽力し、大正十五年(一九二六)の「工業開始届」では、渡辺陳平の屏風岩石材部で働く従業員は男一六五人、女六九人に達していました。

(株)屏風岩(渡辺家)文書には、屏風岩石材部の経営帳簿、成績表、石材払簿、取引相手と単価・代金等の月計簿や同業者団体の宇都宮石材問屋組合、大谷石材協会とそこから分離した大谷石産地営業組合の各規約と大谷石価格表、そこで働く職人の職工移動定め、職工日給定め、就業時間表など採掘販売の実際を知る文書が多数残っています。

また、渡辺陳平は、政治活動にも携わり城山村会議員、村長を歴任し、大正四年栃木県会議員、大正六年衆議院議員に当選し、大正八年から昭和五年まで一時期を除いて立憲政友会下野支部長に就き栃木県政の重鎮として活躍しました。その一方経済界でも重要な位置を占め、大正十三年には主な役職として、(株)栃木県農工銀行監査役、(株)下毛貯蓄銀行相談役、(株)下野銀行相談役、(株)中宮電力取締役、(株)関東化粧煉瓦取締役などに就いていて(「履歴書」)、

これらの会社の各期営業報告書が保存されています。



県會議員當選証書 (No. 口239)

渡辺陳平は高等小学校卒業後、下野英学校で英学を修業しましたが、学友船田兵吾の知己を得て、のち船田兵吾の私立下野作新館、下野中学校の経営にも深く参画し、子息の船田中との交友を知る手紙も残っています。

これらの文書群には、太平洋戦争を挟んだ戦前、戦後の統制経済や物価統制令に関する史料も多数含まれており、また昭和十二年から十六年までの城山村国防婦人会の活動に関わる経費支出の状況を如実に現す領収書も多くあります。

(仲田凱男)